

白中雑口把覧 (ザックバラ) No. 25

～ 白沢中の”今”を、ご覧ください ～

発行 令和2年10月9日

校長の白沢学その20 「塩原太助その2」



←金比羅峠。峠を越えるとみなかみ町。

月夜野の塚原宿→



←弁天の渡しで赤谷川を渡り、新治へ。

下新田宿→



←下新田宿にある塩原太助の生家。

生家近くの塩原太助翁公園には、「報徳太助神社」「塩原太助翁の碑」「塩原太助と愛馬あお別れの像」などがあります。



塩原太助が江戸に向かったルートから考えると、愛馬あおと別れた実際の場所は、「塩原太助馬つなぎ松」がある旧三国街道沿いの金比羅峠であると思われます。では、白沢にある「塩原太助愛馬別れの松」とは、何なのでしょう？

話は明治時代に遡ります。三遊亭円朝という噺家が、明治9年8月から9月にかけて、新しい話を創るために日光から金精峠を越えて片品村・沼田へ

取材旅行をしました。その時に創った話が、講談「塩原太助一代記」でした。この話はおおいに民衆に受け、芝居や歌舞伎にもなり、広く知られるようになったとのことです。この「塩原太助一代記」の中で、愛馬あおと別れるシーンの舞台として登場したのが、白沢にある「塩原太助愛馬別れの松」の場所だったのです。

今、「聖地巡礼」と称して、映画やアニメの舞台となった場所を巡ることが流行っていますが、もしかすると明治時代にも同じようなことがあったのかもしれない。

事業に成功した塩原太助が、私財を投じて公益事業を行ったことを前号で紹介しましたが、その中の二つを紹介したいと思います。

一つ目は、塩原太助が江戸に出る際、榛名神社の宿坊でお世話になった関係から、榛名神社に奉納された玉垣たまがきです。玉垣とは「石の囲い」のことです。一番手前の石柱には、『奉献 江戸本所 鹽原屋太助』の文字が刻んでありました。



↑ 榛名神社門前にある宿坊と、塩原太助が奉納した玉垣 ↑

二つ目は、榛名神社から榛名湖に向かう途中ちゅうちゅうにある天神峠いしどうろうに設置された石灯籠です。灯籠の笠の下には、昔の人が書いた”達筆の落書き”が残されていました。



※1年生は旅行で榛名神社に行きますので、見てみましょう。